

地方だより

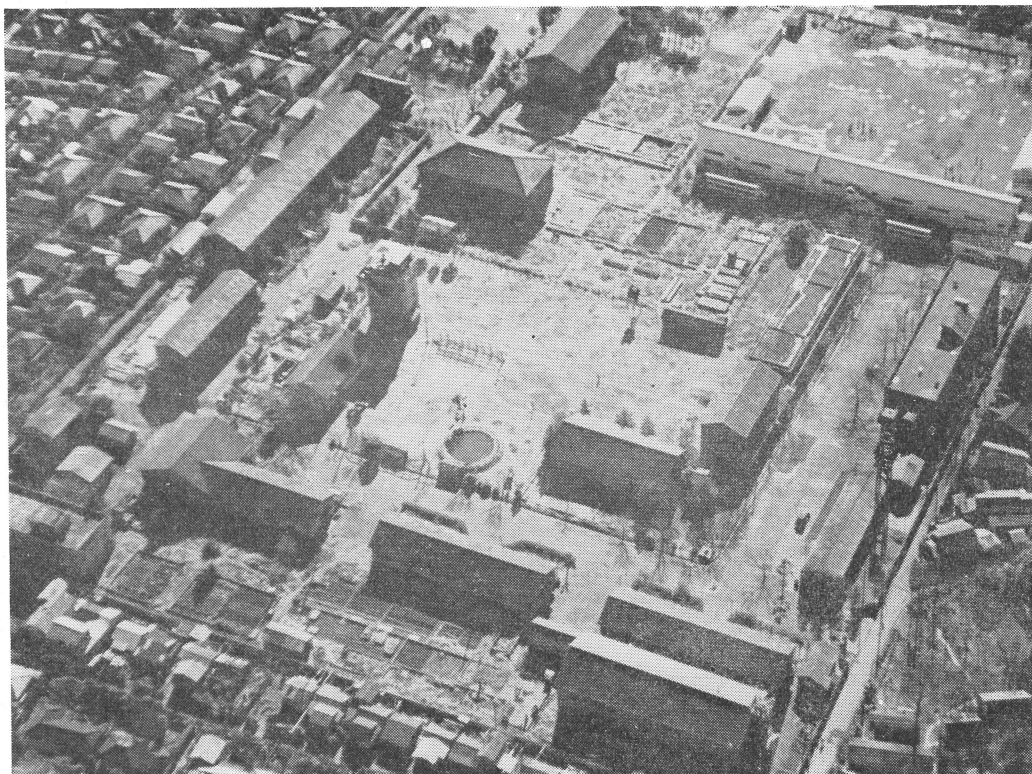
気象研究所

気象研究所は気象学会、電磁気学会その他の学会の会場に使用されたこともあるので大方の方は御承知のことと思うが、改めて紹介すると、気象研究所は気象庁の附属研究機関であり、気象庁の所在する丸の内附近からみると西北西約15kmの中央線高円寺駅と阿佐谷駅との中間にある。この東京都杉並区馬橋の本所のほかに東京都中野区野方町に風洞設備と物理気象研究部が、東京都千代田区の気象庁構内には地震研究部と予報研究部第2研究室がある。また仙台市の仙台管区気象台構内に予報※

※研究部第2研究室仙台分室がおかれている。

杉並区馬橋の本所は元陸軍気象部の敷地と建物をそのまま使用しており、敷地は約7800坪で少々余裕があるが、建物は陸軍気象部時代のもので、しかも戦災の生き残りの建物を使用しているのを見掛はガッチリしているがおよそ研究室には使いにくい建物ばかりで、それもまた8000坪近い敷地の中に散在している。……と云った所が気象研究所の外貌である。この研究所の周囲は幼稚園、小学校、短期大学と云った教育関係の機関で取り囲まれており、小さな文教地区を形成していることは環境の点から云って唯一の取り柄である。

気象研究所の現況を一言で言えば定員142名、年間総予算1億円（但内5500万円は人件費である）、1課9研究部23研究室で構成されており、広義の地球物理学及びそ



気象研究所全影

の応用に関する総合研究機関であると云える。この9研究部は予報・高層気象・物理気象・応用気象・気象測器・地震・海洋・地球電磁気・地球化学の各研究部であり、それぞれの名称の示す分野の研究を担当しているが、その研究内容についてはまた別の機会に紹介することとしたい。

またこれらの研究部門の研究を行うための特殊研究施設としては風洞、低温実験室、気象用レーダー、低温電子顕微鏡、宇宙線用大型電離箱及び試作工場があり、このほか本年度中に自記赤外分光光度計 Sr^{90} 、 Cs^{137} 、 H^3C^{14} 等の放射性元素の精密化学分析装置が設けられる予定になっている。
(武田 武記)